

オルケストラ シンフォニカ 東京

第 51 回

定期演奏会

平成 22 年 4 月 10 日 (土) 午後 2 : 00 開演

第一生命ホール



プログラム

第一部 指揮：嶋 直 樹

1. 弦楽セレナード ハ長調 作品 48 より「第一楽章」 P. I. チャイコフスキー
(蔦谷 悦子 編)
2. トリッチ トラッチ ポルカ J. シュトラウスⅡ
(W. アルフト 編)
3. エジプト行進曲 J. シュトラウスⅡ
(嶋 直樹 編)
4. ポルカ 雷鳴と電光 J. シュトラウスⅡ
(嶋 直樹 編)

第二部 指揮：宮 本 皓 永

1. 武井守成小品集 武 井 守 成
初秋の唄、 ミシン、 雨とコスモス
2. マンドリン・オーケストラの為の「ぶな伝説」 伊 東 福 雄
巻壺、《 幻 》
巻式、《 風 》
巻参、《 笛音 》
巻四、《 悠久 》

第三部 指揮：山 本 雅 三

1. 組曲・山岳写景 Suite - Scène Alpestri. L. メラナ=フォクト
第一楽章 山のこだま (*Klanken uit het Gebergte*)
第二楽章 即興曲：牧人の愛の歌 (*Scherzo : Liefdeslied van den Herder*)
第三楽章 黄昏—牧歌 (*A Vespero - Idelle*)
第四楽章 ロンド 終曲 (*Rondo Finale*)
2. 蛍の舞曲 A. アマデイ
3. 海の組曲 Suite - Marinaresca. A. アマデイ
 - ① ナイアード達のセレナータ (*La Serenata delle Naiadi*)
 - ② オンディーヌの踊り (*La Danza delle Ondine*)
 - ③ シレーネの歌 (*Il Canto delle Sirene*)
 - ④ トリトンのフーガ (*La Fuga dei Toritoni*)

曲 目 解 説

第一部

弦楽セレナードより「第一楽章」

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

Pyotri Ilyetchi Tchaikovski.

P. I. チャイコフスキー（1840年～1893年）が1880年に作曲した弦楽のためのセレナードで全4楽章の中から本日は第1楽章を演奏します。

第1楽章は「ソナチネ形式の小曲」という副題が付いていますが、チャイコフスキーはこの楽章を作曲するにあたり、モーツァルトへの尊敬とその様式への意識的な模倣を試みたとされており、明るく陽気な雰囲気にあふれています。

編曲者の蔦谷悦子さんは長野県を中心に活動している「マンドリン合奏団 玄」のマンドロンチェロパート首席奏者として活躍されています。

トリッチ トラッチ ポルカ

エジプト行進曲

ヨハン・シュトラウスⅡ世

ポルカ 雷鳴と電光

Johann Strausu. II

ウィーンのワルツ王として知られているヨハン・シュトラウスⅡ世（1825年～1899年）のポルカと行進曲をお聴きいただきます。

ポルカはボヘミア地方、現在のチェコ西・中部で1830年頃に生まれた速いテンポの二拍子の舞曲です。題名の「トリッチ トラッチ」はおしゃべりという意味でいわゆる「井戸端会議」の情景を風刺してとのこと。「雷鳴と電光」は突然の落雷に驚き、慌てふためく人々と調子に乗って小気味よく雷を落とす神様の様子を思い浮かべながらお聴きください。

エジプト行進曲は、1870年にスエズ運河開通を祝って作曲されました。当初、シュトラウスⅡ世は、開通祝典に合わせて歌劇を作曲するつもりでしたが、ヴェルディが歌劇「アイーダ」を先に発表してしまったため、記念にこの行進曲を作ったというエピソードがあります。（嶋）

第二部

武井守成作品

武 井 守 成

武井守成氏は1916年（大正4）、オルケストラ・シンフォニカ・タケキ（OST）の前身を創立され、宮内省式部長官という要職につきながらも不断の実行力、先進的な達観により音楽界の発展と演奏活動に尽力を惜しみませんでした。1949年（昭和24）12月OST練習中に倒れ、急逝。墓所は、東京・谷中霊園内にあります。O. S. タケイは、O. S. 東京と改称されましたが、その伝統を受け継いで活動しています。

初 秋 の 唄 1927年（昭和2）8月の作品。その年の11月に作曲者指揮により初演。「純日本風旋律に初秋の哀愁を描き、やや欧風に変えて曇りなき晴空への喜びを唄う。」

ミ シ ン 1947年（昭和22）6月の作品。それ以前の1943年秋に五部合奏で、また1946年に中村登世子によりギター独奏として披露。1947年11月にマンドリンオーケ

ストラとして作曲者指揮により初演。題字横に「武井直子氏に贈る。」とある。＝息女。

雨とコスモス 1941年(昭和16)1月の作品。その年の6月に作曲者指揮により初演。「庭の垣の際に、一本のコスモスが咲き残っている。しめやかに…とは云え音を立てて降る雨に、花びらひとつ動かさず空を仰いで清らかに立っている。それは不思議に古典的で美しい姿であった。」(宮本)

マンドリンオーケストラの為の『ぶな伝説』

伊東福雄

伊東福雄氏は、1947年(昭和22)東京に生まれ、10歳よりギターを独学、22歳で小原聖子に就き、O.ギリアのマスターコースを受ける等して研鑽を積み、ギターコンクールで一位となり、26歳でデビュー。現在まで演奏・指揮・作曲・編曲等マルチ・ギタリストとして活躍を続ける。社団法人・日本ギター連盟理事。ギター曲の他、マンドリン合奏用オリジナルとしては「ぶな伝説」「鶴翼之詩」「ソナタ・ノア」の三作品がある。

日本一の幹周りのぶなの大樹が発見された。1994年(平成6)8月26日、その大樹の下でのコンサートが企画され、わたしも参加した。秋田県仙北市の和賀山塊にある峰で、4百メートル低山の頂上であったが、ギターを肩に送電線に沿って直登するので大変難儀であった。折角、日本一のぶなを称えるからと急遽、作曲して演奏したが、それを契機に作品『ぶな伝説』が完成(全4楽章)したのは、それから4年経った1998年7月のことだった。

巻一《幻》は、その時の作品だが後にリコーダー、バイオリン、ギター用にアレンジした。

巻二《風》1994年12月作曲、初演。同じくリコーダー、バイオリン、ギター用。

巻三《笛音》2台のマンドリン用に作った。24小節の短い楽曲。1998年10月に伊東福雄ラブリーコンサート用に追加、初演された。(朝もやに輝く一對のぶなの対話のイメージ)

巻四《悠久》1995年3月、終楽章に当たる楽想が閃き作曲。(樹の精たちの行進のざわめき)

なお、この曲に付随して伝説の創作を二話作り、朗読を絡めたコンサートを1996年に行った。その内容は、藤原の何某と言う武士が山に逃れて、ぶなの樹の精に助けられた話であり、もう一話は、ぶなの森の近くに住む娘が道に迷ってぶなの大樹に守られて助かったという話である。

また、今回の演奏に当たり、宮本氏のアドバイスにより、終楽章の終結部分を若干修正した。そのマンドリンオーケストラ版としては初演である。(2009.11.18 伊東福雄 記)

第三部

組曲・山岳写景

ロドヴィコ・メラナ＝フォクト

Lodovico Mellana-Vogt.

20世紀の初めの頃活躍し、特に1910年のコンクール入選曲でOSTでも昨年演奏した「過去への尊敬」で知られるメラナ＝フォクトの作品です。1909年発表の「ホ短調演奏会用序曲」にスイスのイヴェルドンの音楽教授との記載があり、スイス人と思われませんが詳しい経歴についてはわかりません。本曲は1928年(昭和3)にDe Mandolinegids誌に発表されました。

アルプスの、とある一日の情景が4つの楽章で表現されています。第1楽章は夜明けです。静かに美しくこだまが山々に響くなか、徐々に陽が昇り辺りがあかるく成っていきます。第2楽章は昼下が

りです。速めの3拍子、スケルツォ（諧謔曲）のリズムに乗って、恋人たちの愛の歌が牧場に交差します。第3楽章は黄昏（たそがれ）、山の夕暮れです。次第に暮れていくなか山あいには哀愁を帯びた牧歌が流れます。そしてアルプスは夜の闇に包まれます。第4楽章は8分の6拍子の軽快なロンド（輪舞曲）で、強弱を繰り返し、はずみをつけながら、にぎやかにフィナーレを迎えます。

[松本讓編集オザキ企画メラナ=フォクト集収録]

蛍の舞曲

アメデオ・アマデイ

Amedeo Amadei.

マンドリンの母国イタリアの作曲家で、軍楽隊長としてまた退任後は指揮者、教授として音楽界の多方面で活躍したアマデイ（1866年～1935年）の作品です。20世紀初め頃のマンドリン音楽の黄金期に「プレクトラム賛歌」「降誕祭の夜」「英雄行進曲イタリア」など多数の作品を生み出し、多大な功績を残しました。明るくロマンティックなメロディー、軽やかで明快なリズムでアマデイの作品は重要なプログラムとして現在も日本全国のマンドリンクラブで高い人気を誇っています。

本曲は可愛らしい小品です。いかにもアマデイらしい愛らしい旋律が、踊るようなガボットのリズムに乗って、幻想的に淡い光を放ちながら中空をちらちらと飛び交う蛍の様子を浮かびあがらせます。1929年ミラノで出版されました。 [中野二郎編集イタリアマンドリン百曲選第9集収録]

海の組曲

アメデオ・アマデイ

Amedeo Amadei.

前曲につづきアマデイの作品。1909年にマンドリン誌イル・プレットロ主催の作曲コンクールで一位を獲得しました。きらめくようなマンドリンのトレモロが海の水面のざわめきを鮮やかに描写します。ギター、ローネ、ベースの中低音の響きは寄せては引くを繰り返す大波小波の心地よいリズムを力強く表現しています。イタリアは地中海に突き出た長靴の形をした南北に細長い半島の国。西はティレニア海、東はアドリア海に面し、南東にはイオニア海を挟んで神話の国ギリシャに対しています。島国の日本人にとっても海は身近な存在です。遠く西洋と東洋と離れていても海に対する思いはどこか共通の感性があるように思います。そのようなこともあり神話に登場する妖精、神の名を持つ4つの楽章からなる本曲は多くのマンドリンオリジナル曲の中でも不動の人気を獲得しています。

第1楽章は神秘的な夜の海を巡る妖艶な水の精ナイアード達のセレナータ。波に揺られほのかな光を放ちながら、あちらこちらと海をさまよいます。

第2楽章は波の精オンディーヌの踊り。しぶきをあげて飛び散る波頭の姿は、まるでマズルカのリズムで踊る魅惑的な精霊のようです。

第3楽章は甘美な歌声で船乗りたちを誘惑する人魚の姿をした女神シレーネの歌。きらめく水面から聞こえてくるかすかな歌声はしだいに大きくなって、船人たちを惑わします。ちなみに「シレーネ=Sirene」は「サイレン=警報」の語源となっています。

第4楽章は海の神ポセイドンの子で半人半魚の男神トリトンのフーガ。荒波にもまれ難破しそうな船を救うために、ほら貝を吹き鳴らし波を鎮めようと縦横無尽に駆け巡ります。このコンサートホールのある「トリトンスクエア」も、もちろんこの神様の名前から由来しています。 (山本)

OSTの歴史

- 1915 (大正 4) 年 9 月：武井守成*1 楽団創設
- 1916 (大正 5) 年 4 月：会名をシンフォニア・マンドリニ・オルケストラと称す
- 1923 (大正 12) 年 11 月：会名をオルケストラ・シンフォニカ・タケキと改称
- 1949 (昭和 24) 年 11 月：戦後初めての定期演奏会開催 (第 49 回)
- 1949 (昭和 24) 年 12 月：武井守成 逝去
- 1953 (昭和 28) 年 5 月：オルケストラ・シンフォニカ・タケキ 第 55 回演奏会
- 1954 (昭和 29) 年 : 杉並マンドリンアンサンブル創立 (演奏会なし)
- 1955 (昭和 30) 年 10 月：杉並マンドリンアンサンブル 第 1 回演奏会 (通算 56 回演奏会)
- 1956 (昭和 31) 年 7 月：オルケストラ・シンフォニカ・タケイ 第 57 回演奏会
(タケキよりタケイに改称)
- 1958 (昭和 33) 年 12 月：オルケストラ・シンフォニカ・タケイ解散
- 1959 (昭和 34) 年 12 月：杉田村雄*2 オルケストラ・シンフォニカ・タケイを復興、本楽団第
1 回定期演奏会を開催 (旧OST通算 60 回)
- 1986 (昭和 61) 年 7 月：杉田村雄 逝去
- 1987 (昭和 62) 年 5 月：楽団名をオルケストラ・シンフォニカ・東京 (略称OST) と改称
- 2009 (平成 21) 年 4 月：第 50 回定期演奏会を開催

*1) 武井守成 (たけい もりしげ：1890 年 10 月 11 日～1949 年 12 月 14 日)

枢密顧問官 武井守正の息子として鳥取に生まれる。宮内省楽部長・式部長官、男爵。

マンドリン合奏団『オルケストラ・シンフォニカ・タケキ』(OST) を主宰し、マンドリン合奏曲・ギター独奏曲の作曲家として活動。また雑誌『マンドリンギター研究』を発刊し、1923 年にはマンドリン合奏コンクールを、1924 年には作曲コンクールを、1927 年にはマンドリンオーケストラ作曲コンクールを開催し、マンドリン・ギター音楽の発展に尽力された。

*2) 杉田村雄 (すぎた むらお：1903 年 2 月 14 日～1986 年 7 月 17 日)

八王子・南多摩郡多摩村の村医 武義の長男として生まれる。

暁星中学時代クラスメートの斉藤秀雄とともに比留間賢八に師事、2 人で暁星マンドリン倶楽部から静美社音楽部へと音楽活動を進める。

1939 年 OST に入団。戦時中、武井守成氏の多摩村東寺方疎開に尽力、音楽関係楽譜・資料も戦火を免れる。

武井氏逝去後 OST の再興に当たり、理事長および指揮をつとめる。武井守成作品の楽譜出版に尽力。日伊音楽協会理事長、マンドリン連盟副会長を歴任し斯界に貢献された。

出 演 者

指 揮 者	山 本 雅 三	宮 本 皓 永	嶋 直 樹	
コンサートマスター	本 間 輝 樹	金 勝 溪 子		
第一マンドリン	本 間 輝 樹 金 勝 溪 子	田 島 明 子 新 谷 文 子	城 戸 かほる 富 田 容 子	中 沢 敦 子 小 川 真 寿 美 小 松 崎 美 奈 子
第二マンドリン	諸 井 美 津 江 後 藤 俊 明	大 口 千 秋 中 村 順 子	田 中 尊 子 木 村 栄 子	嶋 直 樹 藤 田 正 美
マンドラテノール	滝 田 ふ さ 子 石 井 啓 之	深 野 靖 夫 佐 々 木 興 治	田 中 倭 文 子 川 村 安 子	渡 辺 清 子 高 嶋 典 子
ギ タ ー	宮 本 紀 子 平 田 陽 一	門 田 雄 二 坂 本 富 三 郎	黒 崎 恵 美 子 澤 田 行 雄	船 崎 薫 山 本 雅 三
リュートモデルノ	戸 次 脩	高 梨 一 弘	吉 尾 浩	
マンドロンチェロ	宮 崎 泰 行	田 村 美 恵 子		
マンドローネ	家 城 孝 治	宮 本 皓 永	石 井 啓 之	
コントラバス	佐 藤 正	石 黒 不 二 夫		
フ ル ー ト	★西 村 い づ み			
クラリネット	★福 嶋 美 香			
ピ ア ノ	★浦 島 晶 子			
打 楽 器	★齋 藤 祥 子	★目 等 貴 士		
				(★=賛助奏者)
幹 事	宮 本 皓 永 (代表)	家 城 孝 治	本 間 輝 樹	
	山 本 雅 三	嶋 直 樹	平 田 陽 一	藤 田 正 美
	諸 井 美 津 江	石 井 啓 之	後 藤 俊 明	

プログラム 音寛出

第一節 木部本宮 三宮本山 音 寛 出

1. 松風セレナーデ (松風) 作曲 伊藤 功雄 (第一楽章) 指揮 伊藤 功雄

2. 新編 舟歌 (舟歌) 作曲 伊藤 功雄 (第二楽章) 指揮 伊藤 功雄
 3. エジプト行進曲 (エジプト行進曲) 作曲 伊藤 功雄 (第三楽章) 指揮 伊藤 功雄

4. 新編 舟歌 (舟歌) 作曲 伊藤 功雄 (第四楽章) 指揮 伊藤 功雄



5. マンドリン・奏 (マンドリン・奏) 作曲 伊藤 功雄 (第五楽章) 指揮 伊藤 功雄

6. 新編 舟歌 (舟歌) 作曲 伊藤 功雄 (第六楽章) 指揮 伊藤 功雄

第三節 木部本宮 三宮本山 音 寛 出

1. 組曲・山部写楽 Suite - Scène Alpine
 第一楽章 山のこだま (Alps Echo)
 第二楽章 湖の静けさ (Lake Calm)
 第三楽章 雲の行状 (Clouds)
 第四楽章 ロンド 湖邊 (Lake Side)

2. 雲の舞曲 (雲の舞曲) 作曲 伊藤 功雄 (第七楽章) 指揮 伊藤 功雄

3. 海軍組曲 Suite - Marine Suite
 第一楽章 帆立 (Shell)

オーケストラ シンフォニカ 東京 (OST)
 連絡先: 〒 252-0001 座間市相模が丘 3-66-37 宮本 皓 永
 TEL & FAX 046-255-5248
 ホームページ: <http://ishii164.net/~ost/>